

## 白浜レスキューネットワーク通信 7月号

〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 3137-8

TEL&amp;FAX0739-43-8981

http://srnw.or.jp

e-mail yabiumi@gmail.com

理事長 藤藪庸一

郵便振替 00920-6-85589 口座名：白浜レスキューネットワーク  
 紀陽銀行白浜支店普通預金 589389 口座名：NPO特定非営利活動法人  
 白浜レスキューネットワーク

### 自殺者救済活動

7月1日～7月31日

メール相談 4人

保護件数 4件5名(男性3名、女性2名)

帰宅件数 3件4名(男性2名、女性2名)

○3日、ご夫妻を保護。一週間ほど滞在。大阪へ帰ることに。

○15日、警察からの依頼で男性を保護。京都へ帰ることに。

○15日、役場からの依頼で男性を保護。

○16日、電話があり女性を保護。三日後帰った。

○19日、三段壁へ。会えず保護に至らなかった。

### 生活自立支援活動

7月1日～7月31日

滞在者数 15人(男性12人、女性3人)

○昨年10月に保護した80代女性は、教会玄関の花を植え替えてくれた。

○高校在籍の20代男性は、もう一人の高校生と同室でしたが、別々の部屋に移動した。

○コンビニとまちなかキッチンで働く20代女性は、よくがんばっている。

○80歳の男性は、暑さに負けず日々過ごしている。

○まちなかキッチンで訓練を受けている30代男性は、藤藪の入院離脱を受けて、まちなかで中心にならなければならぬ自覚が出て来た。  
 ○もうすぐ共同生活4年になる、まちなかキッチンで訓練を受けている男性は、藤藪の入院離脱後、がんばって支える側に回って働いた。

○共同生活に加わって一年経った女性は、素の自分を出しているんだということを確かめている。  
 ○リハビリに行き始めた男性は、定額給付金の

使い道を相談し、本人の希望で返済にあてた。

○今年2月からホテルで働き始めた40代の男性は、ホテル営業再開を受け、職場に復帰した。

○昨年10月に近所のアパートに引っ越してきた女性は、男性スタッフと口論になったが、自分の足りなさを確認する機会となった。

○明誠高校和歌山白浜SHIPの生徒となった高校生は、課題が全部終わり、スクーリングとテストの実施を待っている。

○今月から共同生活に加わった男性は、何度も家に返ったり、戻ってきたりと不安定だが、少しずつコミュニケーションが取れるようになっている。

### 自殺予防活動

・相談電話

6日、13日、20日、27日と行なった。今月も1人の相談員が休まず電話相談にあたった。

\*コロナウイルスの感染予防のため、以下の活動を自粛。

・放課後クラブ ・コペルくん ・夜コペ  
 ・はじめ人間自然塾 ・少年少女漂流隊

・理事長の緊急手術入院と退院について

26日(日)早朝、右わき腹の腹痛と発熱のため、救急で南和歌山医療センターに行き、盲腸破裂と腹膜炎と診断を受け緊急手術入院となった。そのため、相談電話が数名のボランティアで守った。31日(金)採血の結果が良く、退院許可が出たことを受け、その日の夕方退院。8月13日の通院日まで自宅療養となった。回復に向け経過は順調。